

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2370500916		
法人名	有限会社 丸八介護サービス		
事業所名	丸八グループホーム日吉		
所在地	名古屋市東区日ノ宮町一丁目61-1 (電話) 052-485-3808		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月2日	評価確定日	平成19年8月1日

【情報提供票より】(平成19年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年9月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	26,160 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年6月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85 歳	最低	79 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	医療法人誠心会 大菅病院・細川クリニック・城北歯科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは落ち着いた住宅地にあり正面には緑豊かな公園がある。2階建ての1階部分は併設のデイサービスセンターとなっており、デイサービスの利用者がホームのピアノを弾きに来たり、入居者がデイサービスの行事に参加するなど交流がある。4月から音楽療法を取り入れており、訪問日にはボランティアのバイオリン、職員のピアノに合わせて入居者手作りの楽器による演奏会があった。共用型デイサービスも開始され、利用者は自宅から通いながら、日中はホームで入居者と共に過ごしている。ターミナルケアの経験もあり、医師と連携しながら看護師である管理者の指導により、勉強会や話し合いを重ねて対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価について全職員参加の会議で話し合った。主な改善点は、緊急時の手当について、管理者がホームの実情に合わせた独自のマニュアルを作り勉強会を行った。昼食はデイサービスセンターで作っていたが、ホームで調理するよう改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は意識付けの機会になると捉えて職員に説明し、全職員が取り組んだ。職員から記述式で難しかったが、日頃の業務を振り返る機会になったとの声が聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議ではホームの現状、共用型デイサービスの開始について報告され、音楽療法の取り組み、話し相手のボランティアの検討などが話し合われた。民生委員のメンバーからは地域の実情について多くの発言があった。他のグループホームの取り組みも参考にしようとする見学を行うことを決定した。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱を設置し、意見や苦情があればグループホーム会議で話し合い対応する。面会に訪れたときや電話連絡の際に話を聞いて、些細なことでもできることはすぐ対応し、必要なことは管理者に報告、会議で話し合っただけ対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。また、こども110番の家になっている。散歩の時には、地域の人から声をかけていただいたり、花をいただくこともある。学区の運動会、敬老会、町内の盆踊りや秋のお祭りに参加したり、ホーム前の神社、公園の掃除を地域の人々と一緒に行っており、交流の場となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は喜びの輪を広げ「人格の尊重」「共に生きる」「安全、安心して生きる」となっている。感謝の気持ちを大事に一人ひとりを大切にしていきたいとの思いがある。	○	地域密着型サービスとして、理念の内容に地域との関わりについても織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所内に掲示している。管理者は理念を具体化した内容を折に触れ話しており、職員は毎日の行動の基本としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。また、こども110番の家となっている。散歩の時には、地域の人々から気軽に声をかけてもらっている。ホーム前の神社、公園の掃除に参加、地域の盆踊りや秋のお祭りにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については全職員参加の会議で話し合い、緊急時の手当について独自のマニュアルを作って勉強会を行うなど改善に取り組んだ。今回の自己評価については管理者が説明し全職員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議ではホームの現状や共用型デイサービスの開始、音楽療法の取り組みなどが報告された。また、他のホームの様子も知ってサービスの向上につなげようとする見学会を計画した。民生委員のメンバーから地域の状況について多くの発言があった。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設長が積極的に取り組んでおり、市や区の担当者とは行き来する機会が多い。担当者と地域密着型サービスについて話し合っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りは季節ごとに年4回発行、全職員で作成し入居者の日常の様子を写真入で紹介している。家族が面会に訪れたときには時間をとって話をしており、面会のない家族には電話で報告している。金銭面の報告は事務所が毎月行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、意見や苦情等あれば月1回の会議で話し合う。家族の訪問時にはお茶を出してゆっくり話ができる時間をとっており、意見などあれば些細なことでも職員間や会議で話し合い対応している。家族会はない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ほぼ全員を正職員として採用し、離職を抑えるよう努めている。離職の際はお別れ会や十分な説明をし、次の職員にスムーズに引き継げるよう配慮している。新しい職員には、1週間見習い期間を設けてベテランの職員と組んで研修を行い、入居者に不安を与えないようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は職員が順番に参加している。参加した職員はレポートを作成し報告会で他の職員に伝えている。内部研修は看護師である管理者が講師になって行っている。またセンター方式を用い全職員がケアプランを作れるよう勉強している。勤務表上で音楽療法など働きながら学ぶことへの応援もしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設長が愛知県グループホーム協議会の幹事をしており同業者との連携や交流がある。職員は研修会に参加し情報を得たり、他ホームの職員と交流している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に家族と一緒に見学してもらい雰囲気に慣れてもらっている。通いや宿泊のお試しは部屋が空いていけば受け入れている。共用型デイサービスの利用者は自宅からホームに通い、ホームや職員に馴染んでから入居することができる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者ができることは、職員が見守りながら一緒に行っている。調理の仕方を教えてもらったり、ご苦労さんといったわりの言葉をかけられたりと共に支えあう関係となっている。こだわりの強い入居者には、職員が寄り添い本人の気持ちを理解するよう接している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者と一緒に過ごす時間を大切に、一人ひとりの話をよく聞いて、思いや希望を把握している。困難なケースでも寄り添うことで気持ちが通じることもあり、カンファレンスで話し合って把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族や本人と話し合い、意見や希望を聞いて作られている。毎日ミニカンファレンスを行い、一人ひとりの状態について話し合っている。家族からは、面会時や電話連絡の時、話を聞いており見直しの際の計画作成につなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化があった場合は随時見直すが、変化がない場合は認定期間内は見直されていない。毎日のカンファレンスで一人ひとりの状況について話し合ったり家族の話は聞いているが、計画の見直しや新しい計画を作成するまでには至っていない。</p>	○	<p>介護計画の期間にとらわれることなく、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための見直しが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況に応じて通院や送迎の支援を行っている。共用型デイサービスを開始、自宅からホームに通いホームや職員になじんでから入居することができる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地元の馴染みの医師が連携医になっており、24時間対応となっている。通院介助はほとんど職員が行っており、家族には結果報告をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際、家族に重度化についての指針を説明し同意を得ている。終末期の場合、早期から家族と話し合いを行い、職員も情報、方針を共有できるよう話し合っている。医師とも連携を図っており、看護師である管理者からは状況に応じた研修を受けている。すでに看取りを経験している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の性格、生活歴など配慮し、誇りやプライバシーを傷つけないような言葉かけ、対応を心がけている。記録等は施設外に持ち出さないことを徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者に合わせた介護を心がけている。スケジュールは目安としてあるが、本人のペースを尊重し、その日の体調や希望に沿うようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が積極的に味付け、盛り付け、後片付け、おしぼり作りに参加している。食材は宅配を利用しているが、時にはベランダで採れた野菜を調理して食卓に乗せている。職員と一緒に座って見守りや介助をしているが、食事は別にとっている。	○	職員が同じものを食べていないため、味付けや食べやすさについて把握できない面がある。同じテーブルを囲み同じものを食べ、共に食事を楽しむ取り組みを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴時間は午後となっているが、できる限り一人ひとりの希望、都合に合わせるよう配慮している。入浴を拒む人にはタイミングを見計らって声をかけている。日曜日には、1階にあるデイサービスの大きな風呂で温泉気分を味わっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダで育てている野菜に米のとぎ汁を与えたり、食器洗い、洗濯物たたみ等自分のことをしてもらい一人ひとりが役割を感じられるよう支援している。音楽療法では懐かしい歌を歌ったり、ピアノやバイオリンの生の演奏を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は外に出ていただくを目標にして散歩に出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけている。毎週金曜日は外出の日になっており、2人ずつ交代で希望にあわせて出かけている。食事会、遠足、お花見などの行事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。居間の入り口の前が階段になっているため、共用型デイサービスの利用者があるときは、日によっては安全のため鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は入居者も参加しており、消防署と連携して夜間を想定した訓練も行った。非常用飲料、食料、備品を備えている。町内会には非常時の応援をお願いしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>業者の献立によりカロリー、栄養の計算はされている。食事量はチェックされ水分摂取量も大まかに把握されている。入居者の状態によって刻み食やおかゆを用意している。夜間、お茶(冬は温かい・夏は冷たい)をペットボトルに入れて枕元においている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には七夕飾りがあり、壁には入居者手作りのカレンダーが掲げられている。ガラス戸越しに、ベランダで栽培されている季節の野菜の成長を楽しむことができる。テレビはつけっ放しにしないようにして静かな音楽を流している。空気清浄機も置かれて、居心地のよい空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた鏡台、たんす、ふみ机などの家具が持ち込まれ、入居者の動線を考えながら本人や家族と相談して配置されている。自分で描いた絵や写真が壁を飾りお気に入りの本や画集も置いてあり、居心地よく過ごせる居室になっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。